

平成21年3月31日

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 石川県金沢市

代表団体名

事業名称 ICTを活用した図書館子ども育成推進モデル事業

1. 事業実施概要

本市の地域課題である「次代を担う人材育成の推進」のため、ICTの利活用を通じて、その解決を促進するものである。19年度から21年度に掛けての3ヶ年により、①子どもの読書環境の整備 ②子どもの地域との交流促進 の取組を実施する。

本市では、旧日本たばこ産業株式会社金沢支店の建物を利用し、20年秋に開設した玉川こども図書館を「たくさんの子どもが本に親しめる拠点」「親子で楽しく学んで、活動する拠点」等のコンセプトのもと、市全域からの子どもや親子の利用を対象とし、読書と様々な学習体験を提供する施設としており、このこども図書館において、ICTの利活用により上記のコンセプトを実現し、図書館機能の充実と新しい図書館サービスの提供を図ることとしている。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
システム稼働率	稼働時間の50%以上	100%	○	開館日は常に稼働している。
図書の貸出	増加傾向を目指す	25,700冊	○	図書貸出件数集計
デジタル絵本システム利用により、原作等を読んでみたいなど読書意欲の高まった者の割合	利用者の71%以上を目指す	77%	○	利用者アンケートを実施。

インフォメーションシステムによる地域情報発信状況(利用地域団体の増加と子ども地域活動への参加機会の増加)	地域情報掲載件数：月 20 件以上を目指す 情報提供地域団体数：年 20 団体以上を目指す	地域情報：月 20 件 情報提供団体：24 団体	○	システム掲載実績
--	--	-----------------------------	---	----------

3. 達成見込みが△又は×の場合はその理由

<委託業務説明書>

1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題
なし

2 自律的・継続的運営の見込み

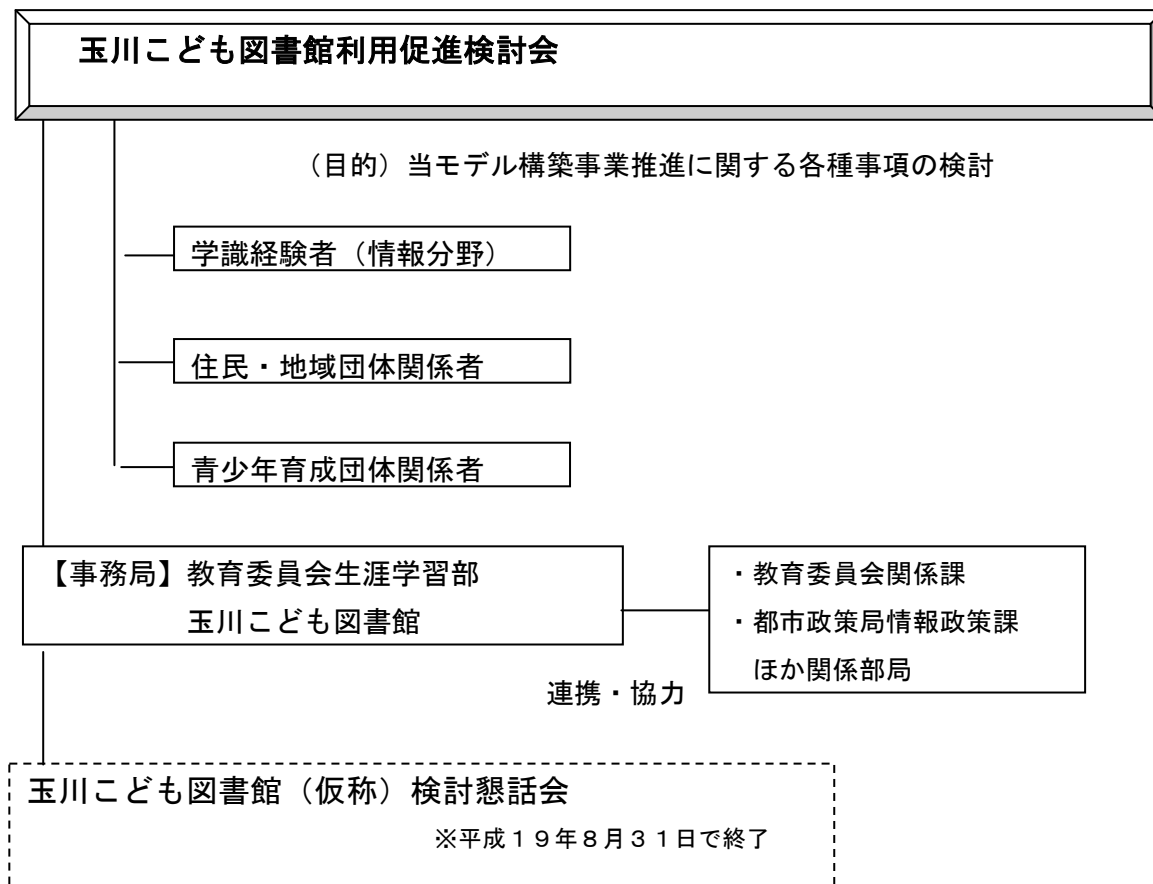
事業終了後は、機器賃借料、保守委託料が主な経費であり、継続的運営可能な範囲である。

3 今後の展開方針

子どもの読書への興味を増進するため、デジタル絵本システムを活用した絵本作成講座等の自主事業の実施や、子どもの地域との交流促進のため、子どもが地域のことに興味を持てるような情報をインフォメーションシステムで一層発信することに取り組む。

<実施体制説明書>

1 実施体制



(目的) 玉川こども図書館（仮称）の基本方針、運営方針、整備推進等の協議

2 各主体の役割

NO	氏名・団体名	役 割
1	飯島 泰裕（青山学院大学社会 情報学部教授）	学識経験者（情報分野） システム構築・運用・設備・機器の導入等に対する助言等
2	小島 宗能（ＩＣビジネスプラザ 武蔵館長）	学識経験者（情報分野） システム構築・運用・設備・機器の導入等に対する助言等
3	山本 由美（みらい子育てネット 金沢市地域活動連絡協議会会長）	住民・地域団体関係者 地域ＩＣＴと子どもや住民の関わりについての助言等
4	横田 幸子（フリーキャスター）	住民・地域団体関係者 地域ＩＣＴと子どもや住民の関わりについての助言等

5	大村 明雄（財団法人金沢子ども科学財団事務局長）	青少年育成団体関係者 子どもの科学体験学習や情報教育に対する助言等
6	香村 幸作（金沢市子ども会連合会会長）	青少年育成団体関係者 子どもの健全育成のあり方についての助言等

事業実施進行表

実施内容	H20 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21 1 月	2 月	3 月
利用促進検討会 開催							△		
システム構成の 検討・決定	→								
システム構築に 係る契約		→							
システム設計・ 開発		→	→	→	→				
システム稼働				→	→	→	→	→	→
報告書作成						→ 中間報告書			→ 成果報告書

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

<http://www.lib.kanazawa.ishikawa.jp/kodomo> [金沢市HP]

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：石川県金沢市

代表団体名：

事業名称：ICTを活用した図書館子ども育成推進モデル事業

1 概要

「デジタル絵本システム」は、これまで、あまり本になじみのなかった子どもが、絵本や本及び読書に興味を持つきっかけとなり、子ども自身や親子と一緒に読書に親しむことができるように、情報通信技術を活用し、パソコン画面上でデジタル化された「動く絵本」を読むことのできる新しい読書体験システムである。

この「デジタル絵本システム」は、今回のモデル構築事業で独自に開発した、デジタル絵本のコンテンツを制作するプログラムである「デジタル絵本作成ツール」により制作した「デジタル絵本」をクライアントサーバ方式により、利用者自身がパソコン画面を通して体験できるシステムである。

「インフォメーションシステム」は、図書館内の各種案内をクライアントサーバ方式によりサーバ内に蓄積される案内を電子掲示板にて配信・掲示するシステムで、スケジュール機能にて時間単位で掲示する内容をプログラム可能である。また、図書館外に設置された電子掲示板にもネットワーク越しに図書館の情報を掲示でき、図書館への来場を促すことに役立てている。

2 運用結果

平成20年秋のこども図書館開館後に本格的な運用となったため、1月中に利用者アンケートを実施。これにより、デジタル絵本の利用により絵本や本及び読書に興味を持つきっかけとなったと回答があったもの、インフォメーションシステムの情報が役に立ったと回答があったものの割合が非常に大きく好評であった。また、同システムのより効果的なあり方を検討するための貴重な意見を収集することができた。

平成21年1月には、玉川こども図書館利用促進検討会において、完成したシステムを委員が体験し、今後の活用等について検討した。

3 課題・改修の必要性

デジタル絵本システムを安定的に稼動運用し、コンテンツの著作権を保護するためのセキュリティ対策に万全を期することが重要であり、外部からの改変行為やコンテンツの流出等を防ぐための防止策を今後ともさらに強化させることが必要である。

4 その他

地域情報プラットフォームへの準拠が可能なものとなっている。